

D X推進の取り組み

Ver1.0 2025年10月8日更新

当社の中長期経営計画では、「いきいき」「わくわく」、そして「共に創る未来」を実現するために、
「人」と「現場」に寄り添う、やさしいデジタルトランスフォーメーション(DX)を強力に推進することを決意いたしました。

私たちのDXビジョンは、**デジタル技術を駆使**し、創業から大切にしている**ホスピタリティマインド**を**融合**させて、社員同志、お客様と会社との絆を紡ぎ、「いきいき」とした社会を創造することです。

すべての人が「わくわく」するような生活環境を提供し、お客様、社員、そして地域社会と「共に創る未来」を実現します。

最先端のテクノロジーを取り入れることで、建物管理の効率化を図り、住みやすさや働きやすさを向上させ、すべてのステークホルダーが幸福を感じられる社会を構築します。

私たちは、革新と協業を通じて、持続可能な地球のために貢献し、次世代への責任を果たしていきます。



代表取締役社長 八木 秀記

持続可能な成長と社会課題解決の両立に向け、デジタル技術の進展を視野にいれ、デジタル技術やデータを活用した新たな価値創造に挑戦します。本資料では、デジタルガバナンス・コードに則り、目指すビジョンとその実現に向けた変革への道筋を示すことで、社内外ステークホルダーとの信頼構築と持続的成長への貢献を目指します。

経営ビジョン

東京美装グループは、
お客様に より長く より広く より深く
寄り添うファシリティ・ライフ・パートナーへ

1. 時代変化の先頭にたったソリューション企業を目指す
2. お客様やパートナーと共により付加価値のあるサービスを提供できる企業を目指します
3. 社員が誇りや働きがいを持つことで未来へ飛躍できる企業を目指します

外部環境分析 内部環境分析(グループ全体)

外部環境分析

1. 少子高齢化にともなう労働力不足
 2. 急速な技術革新とAIの進化
 3. 気候変動と自然災害の増加
 4. ソーシャルメディアの影響力と情報拡散
 5. 地政学的リスクと貿易戦争
- 不透明感を増しながら日々刻々と変化

内部環境分析(グループ全体)

1. グループ全体としての方針や目指す姿の明確化が必要
グループ全体での方向性が共有されておらず、各社ごとに最適化された事業運営に留まっている。2024年度からのホールディングス体制移行により、中長期経営計画(以下:ビジョン2031)のもと共通ビジョンを策定。
2. リソース連携
人財やノウハウなどの資源が分散し、横断的な活用に向けた仕組みづくりが課題。今後はホールディングスを中心となり、グループ間連携を強化。
3. 人財戦略
人材不足が共通の課題であり、今後の確保は一層困難に。グループ横断での育成・活用を進めていく方針

2031年中長期経営計画定性目標

いきいき わくわく 共に創る未来



「いきいき わくわく 共に創る未来」は、私たちが目指すグループ全体の将来像です。
このビジョンの実現には、社員の成長・お客様の満足・事業の成果が好循環する組織が不可欠です。
デジタル技術を活用した変革(DX)は、その好循環を支えるエンジンとして位置づけられており、未来を実現するための具体的な取り組みを示しています。

～「人」と「現場」に寄り添う、やさしいDXの実現～

ビジョン2031「いきいき わくわく 共に創る未来」の達成に向けて、目指す3つの変革と5つのデジタル施策を定義しました。
私たちはデジタル技術を活用したさまざまな変革を推進して参ります。

東京美装グループDXスローガン ～「人」と「現場」に寄り添う、やさしいDXの実現～

デジタル技術を駆使し、創業から大切にしている
ホスピタリティマインドを融合させて、
「いきいき」とした社会を創造する

ビジョン2031 いきいきわくわく共に創る未来

目指す変革の姿

多様な人財が輝く職場へ

グループ全体で仕事を
もっとスマートに

働きがいと成長を
実感できる組織づくり

変革に向けた デジタル施策

業務への
データ活用

IT/データ
インフラ整備

デジタル人財・組織

グループ内/他社と
のコラボレーション

従業員体験価値
(EX)の向上

社員の マインドセット

挑戦する

グループの壁を
超える

日常を疑う

できない理由の前に
出来る方法を考える

利他の心、精神
(ヒト×ヒト×デジタルの共存)

デジタルは
私達のパートナー

ビジョン2031の実現に向け、当社は明確な変革の方向性を定め、その実現に向けた具体的な戦略を推進しています。
実現に向けた変革の方向性と、取り組むべき重点施策を体系的に整理し、着実な成果創出に向けたアプローチを示します。

多様な人財が輝く職場へ

デジタルで支える人財活躍
タレントマネジメントを活用し、若手から高齢者まで、多様な人財が活躍できる職場を実現。

- デジタル人財育成
- タレントマネジメント
- デジタル風土醸成

グループ全体で仕事をもっとスマートに

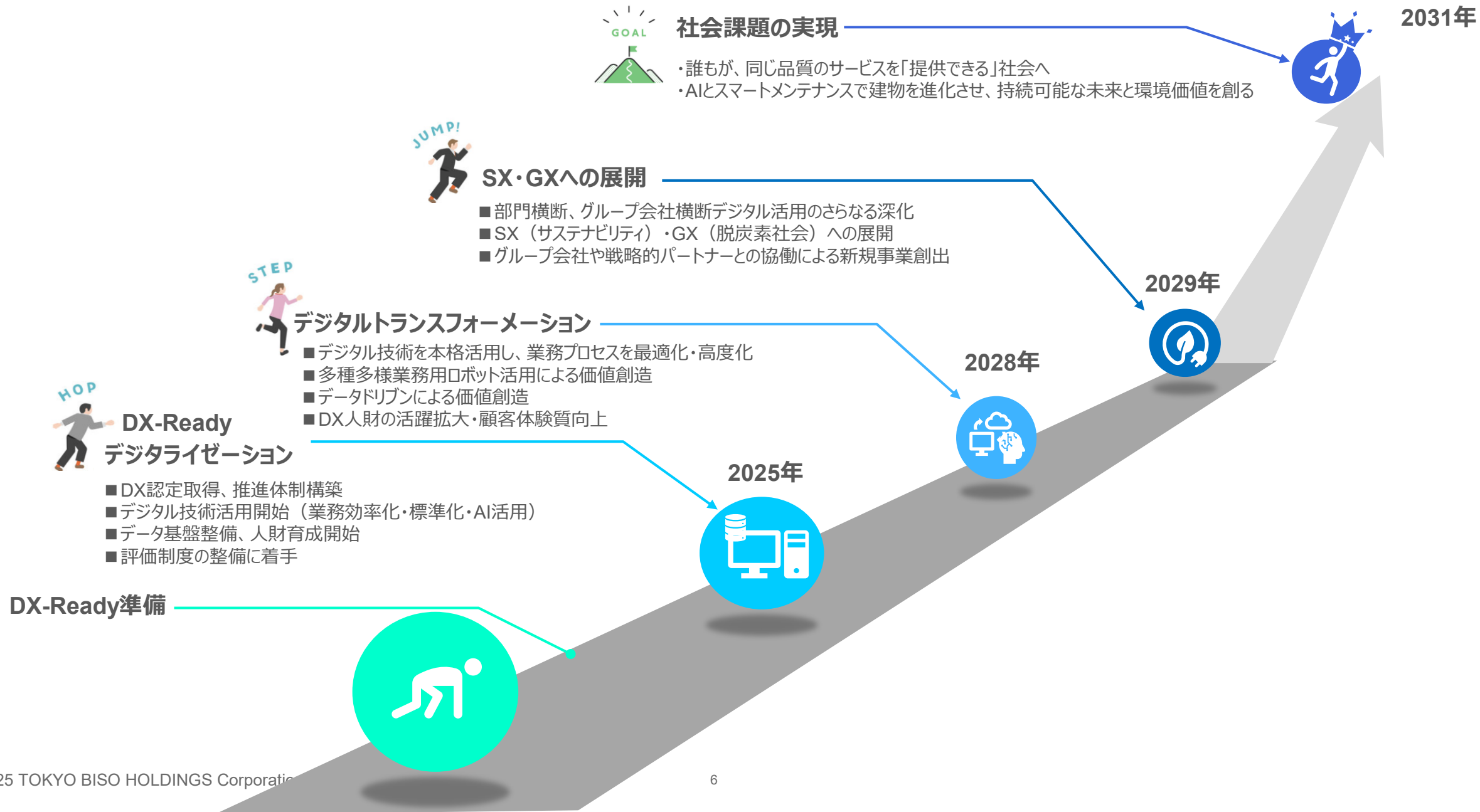
全体最適を実現する基盤整備
営業情報やナレッジをデータで一元化し、業務プロセスを刷新。
AIなどのデジタル技術を活用して効率化とグループ全体の最適化を推進。

- グループITシステム統合
- グループデータ連携
- データドリブン経営
- デジタルツール定着

働きがいと成長を実感できる組織づくり

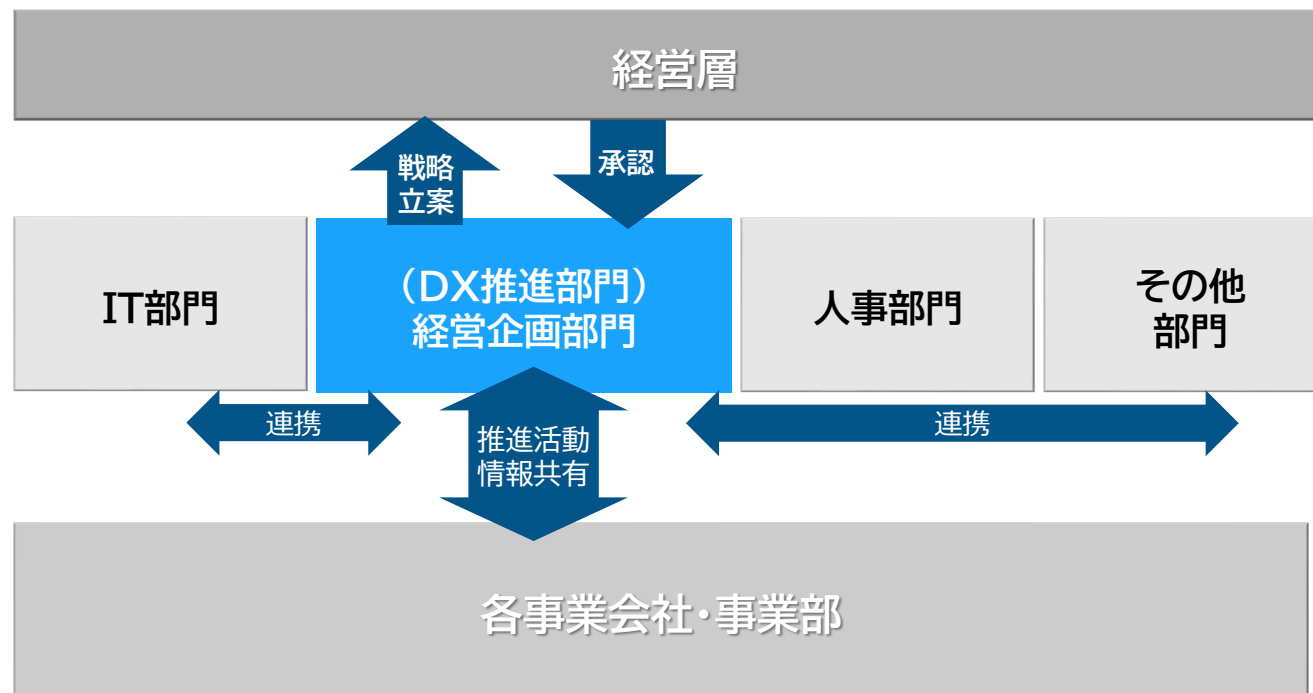
信頼される品質・サービスをデジタルで実現
ファシリティマネジメントの品質標準化・可視化を通じ、顧客と社会から選ばれる組織に成長。

- スマートメンテナンス推進（業務用ロボット、清掃、搬送など）
- 点検データ活用・予防保全
- サステナブル経営（環境・社会貢献）
- 戦略的パートナーとの協業



当社では、戦略の実現に向けて、グループ経営企画部門をDX推進部門とし、その部門長をDX推進統括責任者と位置づけ、グループ全体のDXを推進していきます。関係部署であるグループIT部門や関連部署と連携しつつ、経営課題の解決と業務変革を目的に、現場部門やIT部門と連携しながら、変革をけん引する体制を構築しています。また、外部パートナーとの連携も積極的に進め、共創による価値創出に向けた取り組みを推進しています。

体制図



デジタル技術やデータを活用し、業務改善へとつなげられる人財をDX人財と定義し、育成を推進しています。
特に事業部門では、業務変革とデジタル活用の両立が可能な人財をDX推進人財と位置づけ、DX推進スキル標準に準拠し「情報リテラシー基礎」「DXを推進するリーダーシップや考え方」に重きを置いた教育・育成を実施しています。
また、全社的な人財の底上げと選抜人財への重点育成を組み合わせることで、組織全体のデジタル対応力を強化しています。

東京美装グループの人財像



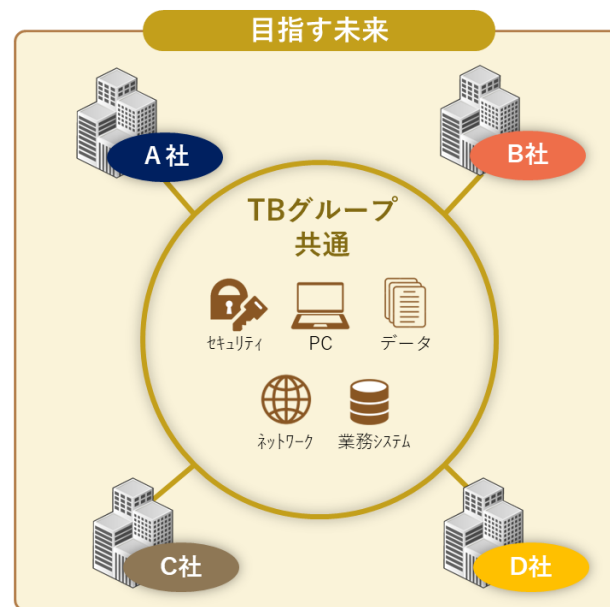
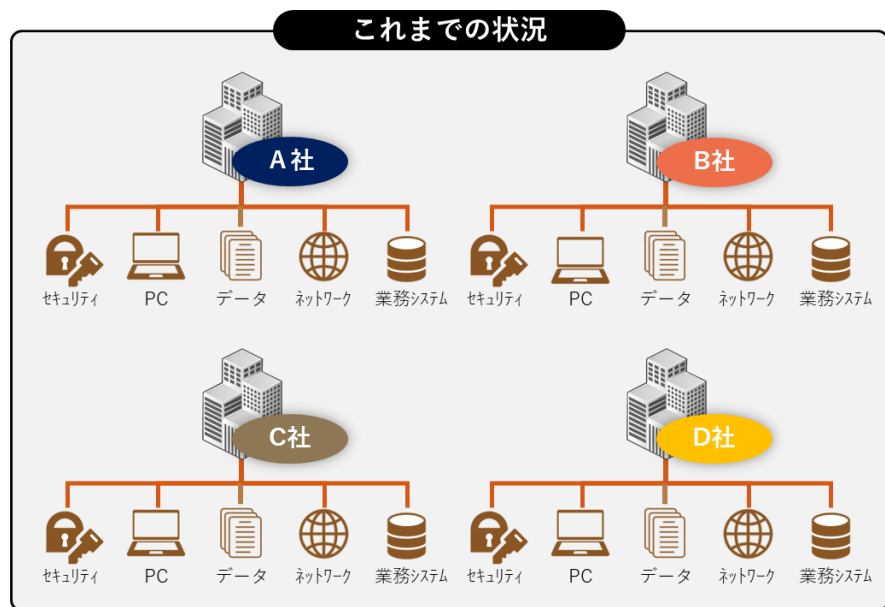
デジタル人財の体系図



これまで、当グループのIT基盤は各社ごとに個別に管理されており、グループ全体でのデータ活用には多くの制約がありました。現在、TBグループ全体での連携を見据えた共通基盤の整備を進めており、グループ横断的なデータ活用が可能な環境の構築に取り組んでいます。

今後は、より高度なデータ分析と活用を通じて、組織の意思決定力と価値創出力のさらなる向上を目指します。また、デジタル基盤の整備と並行して、安全・安心なセキュリティ環境の確保にも注力し、持続可能な成長と社会からの信頼を支える基盤を構築してまいります。クラウド環境、データ連携基盤、BIツールなどの導入を推進し、グループ全体でのデータ利活用を加速させていきます。これらに必要な投資は中長期経営計画に組み込み、取締役会の承認のもと、着実に実行しています。

主要取り組みテーマ



データ活用

- ・経営情報
 - 経営情報のダッシュボード化
 - グループ経営情報の把握と意思決定支援
 - データドリブン経営
- ・日常業務効率化
 - 営業業務ナレッジ集積によるAIを活用した営業品質向上
 - 社内問合せ情報集積によるAI-ChatBotを活用した問い合わせ業務効率化
- ・仕事力向上
 - 現場ナレッジ集積により、誰もが同じ品質のサービスを提供できる仕組みづくり

ビジョン2031の実現に向け、DX-Challenge2031を設け、以下の項目をKPI、KGIとして管理していきます。

DX-Challenge2031

	項目	定義	KPI(2027年)	KGI(2031年)
	デジタル対応人財	デジタルスキル標準 DXリテラシー標準 DX推進スキル標準	THD 100% THD 6名	全グループ会社 100% 全グループ会社 10%
	業務の省力化	業務の標準化と可視化による自動化	2024年度比15%	2024年度比50%
	仕事力向上	データトリブンによる価値創造提案 (建物管理の改善)	5件	10件
	新規事業創出	グループ会社やパートナーとの協業による新規事業創出	企画5件	新規事業2件
	DX関連投資	デジタル変革にかかる情報化投資やクラウド使用料	2024年度×130%	2024年度×200%
	スマートメンテナンス化	多種多様なIoTやAIによるメンテナンス	管理物件50%	管理物件100%

※THD:東京美装ホールディングス

業務用ロボット支援導入・ロボット群管理システム開発

『DX化によるビルメンテナンスの業務効率化を目的とした業務提携に関する基本合意を締結しました』

東京美装ホールディングス株式会社（以下「東京美装HD」）と株式会社ビルポ（本社：東京都中央区、代表取締役：稲垣 太一、以下「ビルポ」）は、ビルメンテナンス業務の効率化を目的とした業務提携に関する基本合意書を2025年4月3日に締結いたしましたので、お知らせいたします。

背景と目的

ビルメンテナンス業界では、人手不足や高齢化、人件費の上昇、多様化する顧客ニーズへの対応といった複合的な課題に直面しております。このような状況下で、ロボットテクノロジーを活用した業務効率化は有効な対策の一つとして注目されております。そこで、この度、東京美装HDは、ロボットの管理・運用で実績のあるビルポと、ビルメンテナンス業務の効率化を目的とした基本合意を締結しました。

【提携先紹介】

株式会社ビルポ
所在地：東京都中央区湊1-6-1 八丁堀Aビル3階
代表者：代表取締役 稲垣 太一
設立：2022年
事業内容：清掃ロボットの導入支援・開発、ロボット群管理システム『BILLMS』の開発・提供、ビルメンテナンス業に特化したDXコンサルティング



株式会社ビルポ 代表取締役：稲垣 太一（左）
東京美装ホールディングス株式会社 専務取締役：尾崎 浩一（右）

- ✓ 導入検討したいけど具体的な進め方がわからない
- ✓ まずは話を聞いてみたい
- ✓ 導入したいが検討する時間がない
- 是非、右記担当者へご連絡ください
- 導入に関するサポートやアドバイスをします

本件問合せ先
東京美装ホールディングス(株)
Gr人材戦略部 丸野
Gr経営企画部 高橋(靖)、水谷

RMFのUI（ユーザーインターフェイス）が『BILLMS』です

同様の問題がロボット先進国であるシンガポールでも発生。シンガポールでは2017年から政府主導でRMF（ロボットファクトリー）が運用されています。



『BILLMS』と連携して提供するサービスについて

「Gazebo」によるシミュレーション

ロボットの3Dモデルを使ったバーチャルシミュレーター「Gazebo（ガゼボ）」を使った検証を行います。ロボットの走行経路を登録したり、シミュレーション条件を変更することが可能で、作業時間の予測は 물론、事前のロボット導入イメージをより明確化することができます。

マルチ充電プラットフォームの提供

あらゆる自律電動モビリティに対して1台で充電が可能な高出力非接触ワイヤレス充電ソリューションを設計に組み込んだうえで現場に導入します。これにより、省スペース化を実現。各社の様々な種類の充電器がバックワード互換性を持つことになったことがなくなります。



手作業のレポート作成を自動化

これまで各社マネジメントシステムから社に出されるレポートを手作業で統合する必要がありました。『BILLMS』により複数のメーカーのロボットが混在する現場でも瞬時に分析、レポートの作成が可能になります。

防災ソリューション事業開発



東京美装ホールディングス株式会社



備蓄用食品の開発・販売
(LIFESTOCK)



デジタル技術を活用した防災関連の事業
(SMART STOCK、BxLink)



東京美装グループ
TOKYO BISO GROUP



建物管理5000棟の実績と
ファシリティマネジメントによる防災備品管理